

イチゴ「よつぼし」の安定多収生産

県内のイチゴ主要品種である「とちおとめ」や「さちのか」よりも低温条件に強く、プラグ苗を利用することで省力化が期待できる「よつぼし」を安定して生産する栽培技術を明らかにしました。

研究成果の概要

1 背景・目的

県内のイチゴ主要品種は「とちおとめ」や「さちのか」ですが、燃料価格の高騰や不安定な天候のために生産が難しくなっています。これらの対策として従来の品種よりも収益性が高く、安定して生産できる品種への切り替えが望まれています。そこで、近年育成された種子繁殖型イチゴ品種「よつぼし」の本県に適した栽培方法と収量性を明らかにしました。

2 内容

- 「よつぼし」は、種苗業者から購入した406穴プラグ苗を6月上旬頃に鉢上げして大きな苗に育て、9月中旬頃に定植して加温栽培すると12月中旬頃に収穫が始まり、翌年6月まで連続して収穫・出荷することができます。
- 冬期間の暖房費を節約するために、ビニールハウス内の最低気温を従来より低い3℃設定で管理し、「とちおとめ」、「さちのか」との収量比較をしたところ、「よつぼし」の収量が最も多くなりました。

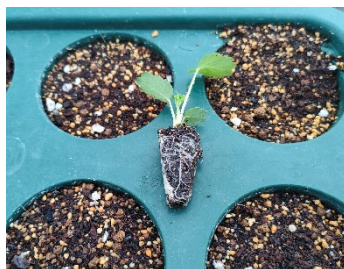


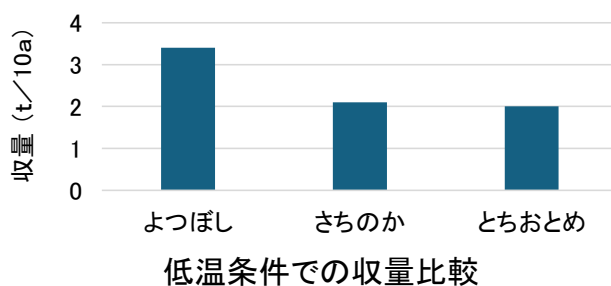
写真1 「よつぼし」のプラグ苗と鉢上げ



写真2 開花期と収穫始めの「よつぼし」

3 活用等

- プラグ苗の購入により、健全な苗の確保が容易になり省力化が期待されます。
- 三八地域や中南地域で「よつぼし」の栽培が始まっており、食味が良いため、観光イチゴ園や産直などで人気の品種になっています。



関連情報

- 「よつぼし」のプラグ苗を種苗業者から購入する際には事前予約が必要になります。
- 種子繁殖型イチゴ研究会ホームページに栽培技術の要点（全国版）が掲載されています。
- 詳細については、参考となる研究成果を参照してください。

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/R6-ys4.pdf>

